

District 2770



イマジン

ロータリー

会長：小林 賢弘
幹事：北林 隆一

Weekly Report

2022~2023 越谷東RC運営方針

●感謝と恩返しの輪を広げよう

2022~2023 RIテーマ

●イマジン ロータリー

越谷東
ロータリークラブ

創立1987年5月18日



〈例会日〉 毎週木曜日 12:30~13:30

〈事務局〉 〒343-0813 越谷市越ヶ谷3-7-1 (NTT東日本 越谷ビル2F)

☎ 048-965-2037 ☎ 048-965-2011

<http://www.koshigayahigashi-rc.org/> E-mail:info@koshigayahigashi-rc.org

第1723回例会 2023年3月9日

司会：会場運営委員会／守屋トミー
会報No.1512号／担当：委員一同

会員数：56名／出席数：29名
出席率：59.18%

水と衛生月間



会長挨拶

会長 小林 賢弘

「私について語る」シリーズ第4回の今日は「バンドマン篇その(1)」をお届けします。中学・高校時代に剣道に打ち込みながらプロレスラーを目指し、新日本プロレス道場で山本小鉄さんとの遭遇を機に断念した私は、次にロックとバイクに夢中になっていきます。現代のような情報量がなかった私の高校時代は、ロックバンドを組み、バイクを自由自在に乗りこなし、ケンカが強いタフな男が圧倒的に女の子にモテました。シンプルでわかり易い時代でした。

ニューミュージックと呼ばれる井上陽水・吉田拓郎・アリス・ユーミン・中島みゆき等が全盛の中、割と早くビートルズ・ローリングストーンズ・ディープパープル・レッドツェッペリンなどのUKロックバンドに

夢中になります。国内ではRCサクセションがキングオブライブと呼ばれ頂点にいました。影響を受けたバンド小僧は数知れず、高校の文化祭では「トランジスタラジオ」や「雨上がりの夜空に」のバンド演奏がお約束の状態でした。

高校2年のクリスマスライブにつき合っていた彼女に誘われて行ったRCサクセションの武道館ライブで、全身に鳥肌が立つ衝撃を受けました。バンド演奏の迫力と格好良さに棒立ちの私にとどめを刺したのが、清志郎の有名なシャウトでした。「OK Baby OK 今夜みんなに聞きたいことがあるんだぜ 愛し合ってるかい？」総立ちの観客が「yeah!!!」と拳を突き上げます。こんなバンドをやってみたくと本気で思った私は、翌日からバンドのメンバー集めに奔走します。

割とブルジョア層の多い学校だったので一般庶民の私は肌が合わず、数少ない友達にも剣道部の事件や3年生との抗争・極真空手野郎との決闘などから、腫れ物に触るように距離を置かれていました。学校では無理だと気付いた私は、小学生からの地元の親友 有馬くんにご相談します。彼はジョン・レノンとボブ・ディランをこよなく愛し、ギターは下手くそでしたがヤマハのアコースティックギターを持っていて「風に吹かれて」を弾き語りで歌ってくれました。「おれもやる」と言って参加した有馬の紹介で清志郎オタクの佐々木芳明が新たにギターで加入、芳明の友だちのドラマー 拓也が掛け持ちで参加することになりました。有馬にコードを教わりながら必死でギターの練習をしていた



- ◆黙 想
- ◆開会点鐘 会長 小林 賢弘
- ◆ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」
- ◆クラブソング斉唱 「クラブ賛歌」(2番)
- ◆会長挨拶 会長 小林 賢弘
- ◆幹事報告 幹事 北林 隆一
- ◆委員会報告 親睦友愛委員会 宮本 正行
- ◆ロータリーの友紹介
オリエンテーション・教育委員会 加藤 盛也
- ◆卓話 「アルジェリアへの出張」 秋山 坦
- ◆スマイル報告 社会奉仕委員会 永島つる子
- ◆出席報告 出席委員会 栗屋 裕二
- ◆閉会点鐘 会長 小林 賢弘

私ですが、ギターはすでに二人いて、ビギナーの私に出番はなく、まだ決まっていなかったベースを担当するしかなく、拓也のバンドのベーシストのお古を5,000円で譲ってもらいました。

バンド名を「THE JAIL」と名付け、RCサクセション・THE MODS・ARBとビートルズ・ローリングストーンズのコピーをすることで話がまとまりました。有馬の高校の文化祭でのライブを標的に練習が始まりますが、早くも問題に直面します。ギターとボーカル担当の芳明がギターは上手いのですが、歌ってみると絶望的に音痴なことが判明するのです。この時小暮さんと知り合っていたら何の問題もないのですが、有馬はビートルズしか歌えないし、私は音痴ではありませんでしたが、ベース演奏に手一杯でとても弾きながらは歌えません。いきなり活動不能かと頭を抱えていたら、たまたま練習を見に来ていた芳明の彼女の純子が「私ユーミン歌ってみたい」と言うので試しに1曲やってみたら、これがなかなか上手いのです。不本意ではありましたが、「THE JAIL」は180度方向転換をしてユーミンのコピーバンドとして練習を再開しました。そして高校3年の11月、有馬が通う駿台学園高校の文化祭の体育館で私はバンドマンとしてライブデビューしました。持ち時間は3曲でしたが、2回アンコールに応え、拍手と歓声を浴びながらやり切った5曲でした。

幸先の良いスタートを切れて舞い上がっていた私は、まともなボーカルを探していよいよ憧れのRCをやるぞと意気込んでいましたが、拓也が自分のバンドが忙しくなって抜け、有馬と芳明もこれからやりたい事の方角性の違いから辞めると言い「THE JAIL」はユーミンを1回やっただけで解散となりました。

この頃の私はプロレスラーを断念した後の虚脱状態から、バンドを始めることで何とか抜け出せましたが、度重なる問題を起こして教師からは冷たい目で見られ無視されるようになり、友だちも無く、エスカレーター式に立教大学に進む気は完全に無くなっていました。地元でのバンド活動と同時に好きなバイクを手に入れるため、ハードにアルバイトをして学校にはほとんど行かなくなっていました。普通の高校なら出席日数が足らずに卒業できず留年するところですが、立教高校は変わっていて、留年するためには留年試験というものに合格しないと、どれだけ出席日数が足りなくても卒業させられてしまう学校でした。今はどうだか知りませんが当時この点は非常にドライでした。

剣道部を辞めてからは勉強を全くしなくなり、レスラーも諦め完全に将来を見失っていた私ですが、バンド運営の難しさを身をもって知り「このまま青春の思い出として終わらせたくない！バンドを作り直してプロになってやる」と思うようになりました。しかし決して裕福ではない我が家では、大学進学しなければどこかに就職するか親父の工場を手伝うしか選択肢はありません。まだ働く気のなかった私は、大学に進み贅沢に使える時間の中で真剣にバンドをやってみようと思いましたが、12月からは毎日学校に通い、授業中に受験勉強をするようになりました。既に教師に相手にされて

いなかったのが、居眠りをしようが、授業と関係ない勉強をしようが何も言われません。席順に指さされている時は、私を飛ばして次のやつが指さっていました。そんな学校ですから何の気兼ねもなく受験勉強に専念できました。皆さんはIQ160だった私なら2ヶ月の勉強でも余裕で合格だろうと思ったかもしれませんが。しかし受験勉強はそんなに甘くはありません。文系の私は英語・国語・日本史3科目の試験を受けるのですが英語が何よりの問題でした。幼い頃から興味を持ったことには何時間でも集中できるので、国語と日本史は得意科目で心配なかったのですが、英語の勉強はつまらなくて大嫌いでした。さすがにまずいと思って勉強をしても、興味を持っていないものは全く頭に入ってこないのです。アイデア学院があったら何の問題もなかったのですが。バンドをやるためとは言え大学に進む以上は、興味のある学問でなければ絶対に卒業できないと自分を理解していた私は、文学部の史学科に入学して古代史を学びたいと思いました。しかし当時文学部を受験するのは、こつこつと勉強を続けてきた女子ばかりでした。英語を捨てて国語・日本史2科目で勝負に出た私が真面目な女子に太刀打ちできるわけがありません。結果現役での受験は全敗。就職せざるを得なくなった時、両親が貯金を崩して1浪だけは許してくれることになりました。どこに飛んでいってしまうかわからない息子が大学に行く気になったのが嬉しかった親心だと感謝しています。

しかし私を合格させていけば、新説の論文を何本も発表し古代史学界に風穴を開けていただろうに思うと、就職や嫁入までの腰掛でしかない女子ばかりを採る日本の大学は阿呆ばかりだとか、何の役にも立たない日本の英語教育を偏重する制度は狂っていて、古代史界の大損失だと八つ当たりをしていました。

そんなこんなで私の浪人生活が始まりますが、人間というものはそんなに簡単には変わりません。御茶ノ水の予備校へ入学が決まった私は、水道橋の親父の工場の2階に下宿します。生まれて初めてスキーをした梔角坂を毎日歩いて予備校に通っていました。真面目にスタートした浪人生活ですが、1浪後の受験をほぼ全滅にまで追い込む最大の誘惑が私を待っていました。いったい何か？

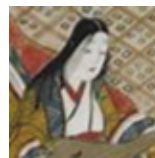
それは麻雀でした。さて続きは次回「バンドマン篇その(2)」でお話します。

【奥の細道 芭蕉】(敦賀)

月清し 遊行のもてる 砂の上

その昔、遊行二世上人が氣比明神への参詣を楽にするために運んだという白砂。その白砂の上に清らかな月が輝いている。砂の表面に月が反射してきれいだ。清らかな眺めだ。

(出席委員会)



スマイル報告

社会奉仕委員会 永島つる子

今 回

18,000円

累 計

651,500円

幹事報告させていただきます。

先週よりご案内させていただいている「トルコ・シリア大地震救援募金」ですが、本日まで募金を受け付けておりますのでよろしく申し上げます。ちなみに現在15,000円が集まっております。



来週の例会は、IMゴルフとなりますのでお間違えの無いようお願いします。

また、夜には、「張 政さん卒業祝いの会及びIMゴルフ打ち上げ」が開催されます。夜だけの参加も大歓迎ですのでよろしく申し上げます。

以上幹事報告でした。

ロータリーの友 3月号の紹介

みなさんこんにちは。今月のロータリーの友紹介を担当いたします。花粉症のため鼻詰まり声で聴き難いかと思いますがご容赦ください。

横組み4～5P

「茶道の大家が語った平和への思い」

昨年11月にジュニア・ジョーンズRI会長が来日した際の記事になります。

私が昨年ロータリーの友9月号で紹介した裏千家前家元の京都RC会員千玄室氏と会い、同じ週に第2次世界大戦でアメリカ海軍に従軍し、ガバナーを2期務めたユタ州パークシティの100歳のロータリアンと方と共通する過去を知って、二人共平和構築者として人生を送るためにロータリーを選んだことに感動したと語っております。RI会長は、お二人からロータリーの目的にある国際理解、親善、平和を推進することを実践している姿を強く感じたのかもしれない。私たちもロータリアンとして、世界平和のために行動する必要があると改めて考えます。

横組み7～15P

地域の森活用術

日本国内にある森林の荒廃が問題となっています。国も対策に乗り出しましたが、全国のロータリーク

オリエンテーション・教育委員会
加藤 盛也



ラブでも「ロータリーの森」と名前を付け、各地で植林活動や整備に尽力しているクラブと会員の活動が紹介されています。

特に12P～13Pで小学校の無機質な教室に温かみのある無垢の杉材を張り、教室の雰囲気が変わったことから「教室の空気から地域の子もたちの元気、笑顔をつくりたい」という活動の記事を見て、昨年度の畔上社会奉仕委員長を中心として地区大口補助金事業で南越谷小学校の特別支援学級へ県木材を使った机やベンチを寄贈したことを思い出しました。

横組み22P

視点 ガバナーのロータリー・モメント

第2770地区細淵雅邦ガバナーの「Perfect Accord 目指してまず自分から」とした記事が掲載されています。ガバナーとなったことを機にまず己自身を高め、利己でなく、世界平和に向けて利他の心で、全力で進もうと決め、今後起こる事、聞く事、経験する事、全てを寛容な心で受け止める。そして、それらを丁寧、真摯に、自分なりに咀嚼し理解し、最終判断後、実効挑戦していこうと定めたそうです。

卓 話

アルジェリアへの出張

涙じゃないのよ 浮気な雨に ここは地の果て
アルジェリア どうせカスバの夜に咲く 明日は
チュニスか モロッコか 泣いて手をふる うしろ
影 外人部隊の白い服と歌われているアルジェリア
行きを命じられ、フランスのオルリー国際空港に降
り立ったのは暮れも押し詰った昭和47年(1972年)12
月25日、クリスマスの雪降る日でした。{上司曰く、
アルジェリアは1月1日元日こそ休みだが正月がなく、
官公庁は2日から仕事をしているので、日本の
正月休みを有効に使い、との指示でした。(プラント
建設に関わる法律・規格・ルールを調べる為の出
張)} 私の頼りはこのミッションの為に特訓を受け

秋山 坦



た、たどたどしいフランス語と若さと体力だけでした。当時、ソ連上空は飛行出来ないの北回り(アンカレイジ経由)で、モスクワ、ハンブルクと乗り継ぎ20数時間かかる長い出張でした。(その先も有りまけど...) その長旅でようやくフランス・オルリー国際空港に着いた途端に特訓を受けた、たどたどしいフランス語と下手なイングリッシュの格闘の始まりです。

まず到着時には商社の伊藤忠のスタッフが出迎えに来ているとの事でしたが、いくら待っても現れず、反古にされたのが始まりで、それからが苦難の連続です。それでも何とかタクシーに乗り、伊藤忠のバ

りの事務所に着きました。そこでまた問題です。私は当時、エレベーターは日本やアメリカで乗り降りしているタイプしか知りませんでしたので、あの格子状の扉を手で開け閉めするタイプは知らず、立ち往生してしまいました。階段も何処かに有るはずでしたが見当たりません。それでも何とか4階の事務所にたどり着きました。(たしか通りがかりのおばさんがエレベーターの開け方を教えてくれたと思う?)

当時アルジェリアに入国するには日本でビザを申請し、諸手続きをすると数週間かかるので2~3日に入れるパリを拠点にしていました。伊藤忠ではこのクリスマス明けの忙しい時期にIHIの下っ端の若造をなんて送り込んで来たんだ、と迷惑顔される始末で、日本人のスタッフは真とにも相手にしてくれず、フランス語と英語だけを話すローカルの女性のスタッフを宛がられました。こちらとしては20数時間掛けて、花の都パリに来たわけだし、ましてや商社なのだから噂に聞く素晴らしいフランス料理でもご馳走してくれるのかと期待してきたのにそれも無く、がっかりしました。その夜はガイドブックを片手に凍てつくパリの街に一人出て、フランス料理店で夕食を取ろうと、うろついたので、自信がなく、断念する始末でした。結局持参した菓子類で済ませるハメになりました。この時、困ったのは飲み物でした。会社からは生水は絶対飲むな、と釘を刺されていたのですが、背に腹は変えられず、ホテルの水道水を飲んでしまいました。(結果的には腹痛は起きませんでした) そうこうしている内にパリの街にも慣れ一人で観光バスに乗り、街を散策したりして結構エンジョイしました。

その後、アルジェリアの首都アルジェに向ったのは確か28日の早朝で100人位乗りのアルジェリア航空のローカル便でした。(この時は未だアルジェリアとしての国際線の運航はなかったと思う、英語が

使われていなかった?) 途中の景色は素晴らしくモンブランの山並みもくっきりと見えました。いまだに喉に焼きついています。ただ機内でのアナウンスはフランス語とアラビア語でさっぱりわからず、機内食のオーダーも出来ず、有一読めたサイダーを注文出来ただけでした。(サイダーはただのミネラルウォーターで、ガス入り、ノンガスも知りませんでした。) そうこうしているうちに地中海を横断し、約4時間のフライトで、アルジェに着きました。

ここでまたまた問題の発生です。税関での手荷物検査で食料品のパックに入っていた乾燥剤(シリカゲル)が引っ掛けてしまいました。白い粉状なものですから何かの薬物ではないかと疑問をもたれたのか? 中々通してくれず、言葉が通じないので身振り手振りで説明するのですが、判ってくれない、小一時間位すったもんだしましたが、何とかパスする事ができました。

空港では先に赴任していた設計とアドミの担当者が迎えに来てくれていました。空港からは迎えの車に乗りIHIのアルジェの事務所に向かいました。空港から見える小高い丘のアルジェの街は白い建物が並ぶ南仏風の綺麗な街に見えました。所がだんだん近づいて行くところが外見ばかりでスラム街に入っていくのでは? と思われ、不安になりました。着いた所はスワサント・カンズ・モハメット・サンクにあるIHIアルジェリア事務所でした。この事務所の住所は50年たった今でも忘れません。と言う事で今回の話は此までとします。次回機会が有りましたらこれ以降の仕事の話、観光の話、食事の話をしたと思いますが? 多分無いと思います。

これだけですと単にメモを棒読みしているだけです。今、話をしました所要所の絵を添付してありますのでご覧に成って下さい。有難うございました。



パリの街並み(裏通りにレストラン・ビジネスホテルが有る)



吉田所長(吉田茂首相の次男)とムーランルージュで観たフレンチ カンカン



パリからアルジェ行きのフライトから見たモンブランの山並み



空港から遠くに見たアルジェの街並み